



沖縄経済を進化させる情報紙

Okinawa Venture Studio

March. 2025

Vol.

77

沖縄

# ベンチャースタジオ

Take Free

読者プレゼント有



【表紙の人インタビュー】

松田るかさん

女優

【特集】

ロケーションビジネスで

新たな地域産業の魅力発信

【ナイスアイデアなナイスアイテム】

kamitopia / 恩 On a Village

【ビジネスの挑戦者たち】

(有)大輝商事 新垣晃太 営業課長 / 工場長

【ネットワーク会員からのお知らせ】

【ネットワーク会員広場】

【海外レポート】

沖縄ベンチャースタジオWEBサイト



〒901-0152 沖縄県那覇市小禄1831-1  
沖縄産業支援センター4階401  
TEL 098-859-6237 <https://www.okinawa-ric.jp/>  
発行: (公財)沖縄県産業振興公社

経営に役立つ情報を毎週お届けしています

## メルマガ会員募集中!

- 補助金・助成金のご案内
- セミナー・イベントのお知らせ
- 他機関の支援メニューのお知らせ ... etc.

個人事業主、中小企業の皆さまに役立つ情報を毎週木曜日にお届けしています。登録はもちろん無料です。ぜひご登録ください。

登録  
無料



公益財団法人  
沖縄県産業振興公社  
Okinawa Industry Promotion Public Corporation

メルマガ登録はコチラから  
<https://okinawa-ric.jp/mag/>



沖縄県産業振興公社ではメルマガ広告や沖縄ベンチャースタジオの広告も募集しております。広告掲載に関してはコチラから



SPECIAL

# ロケーションビジネスで 新たな地域産業の 魅力発信

インターネットやSNSを通じた全世界への拡散が当たり前になった現代。ロケーションビジネスやフィルムツーリズムには今後、どのような可能性があるのだろうか。今回は実際に映画やアニメーション制作に関わる方々に、沖縄のロケ地としての魅力や映像作品を通じた産業振興、地域振興について伺った。



映像を通じ、沖縄の魅力を発信  
観光・地域振興に繋げる橋渡し

OCVB沖縄フィルムオフィス

沖縄の認知度向上だけでなく  
地域への還元も視野に入れた支援を

「沖縄フィルムオフィス」をご存じだろうか。一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローにおいて、沖縄県における映画やTVドラマ制作の二元的な窓口の役割を果たす組織として平成15年に設立。現在は、沖縄県の観光施策のひとつである「フィルムツーリズム推進事業」を受託・実施する組織として、県内各市町村や観光協会、ロケーションコーディネーター協会おきなわ、ジャパンフィルムコミッションなどの各団体と連携を取りな



沖縄県の観光施策としての「フィルムツーリズム」について話す沖縄フィルムオフィスの古波蔵修平さん

がら、映像コンテンツを活用した観光振興や各企業とのビジネス展開を支援している。撮影に関するさまざまな協力や情報提供を無償で行い、これまで支援してきた映像作品は1000を超えているという。多岐にわたる問い合わせに対応する沖縄フィルムオフィス統括の古波蔵修平さんは、その役割は大きく分けて4つあると話す。①ロケに関する問い合わせ対応/ロケ候補地や映像制作サポート企業の情報収集と制作側への適切な情報提供により、県内での円滑なロケをサポートしている。②ロケを受け入れる側への支援/ロケ候補地の管理者等へ、ロケ受け入れの際の留意事項をまとめたガイドラインを提供し、トラブル回避のための情報提供や相談対応など、地域を守るための関係性づくりを支援。③ロケ地としての沖縄の魅力発信/沖縄県へのロケ誘致のため、県外・海外のイベント等へ出展し、ロケ候補地や県産コンテンツ等の情報を発信。④地域魅力発信/完成した作品の上映機会の創出やロケ地マップの作成、SNS・WEBサイトを通じた作品のPRといった4つを柱とした業務を行っている。これらの活動を通じて、沖縄が舞台となった映像作品の公開後、『実際にロケ地へ行ってみた

い！』と観光による訪沖へつなげていくのがフィルムツーリズムだ。

ロケ地になることで得られる  
地元企業への波及効果

沖縄でロケが実施されると、県外からのロケ隊による宿泊や飲食等、映像制作サポート企業の活用による直接的な経済効果がでてくる。それに加え、完成した作品のロケ地巡りによる観光客の増加はもちろんのこと、作品に登場した店舗での消費や商品の購入、さらにはコラボ商品などの関連グッズの購入など、経済効果は各方面に広がりを見せる。古波蔵さんは「制作に関わったことで県内企業の利益向上に繋がった事例のひとつに、昨年公開された映画『ラブライブ！虹ヶ咲学園スクールアイドル同好会 完結編 第1章』があります。劇中に

沖縄フィルムオフィスでは4人体制で撮影に関するさまざまな協力や情報提供を行っている

昨年公開の映画『ラブライブ！虹ヶ咲学園スクールアイドル同好会 完結編 第1章』には沖縄の観光スポットや飲食店が数多く登場する



OCVB沖縄フィルムオフィス  
沖縄県那覇市小祿1831-1  
(沖縄産業支援センター2階)  
☎ 098-859-6129  
https://filmoffice.ocvb.or.jp/



登場した飲食店やメニューを目当てに来店客数が増加し、宣伝効果を感じたという声もありました」と話す。また、映画と企業とのコラボ企画についても、沖縄フィルムオフィスから担当者同士をつなぐことも可能なので、興味のある企業はぜひお問い合わせいただきたいとのことだ。「今後もフィルムツーリズムの推進を通じて、産業振興に結びつける取り組みを行っていきます。また、ロケ地の周辺地域へも足を運んでいただける仕組みや仕掛けを各所と協力しながら作っていきたいと思っています。沖縄の魅力が映像を通じて発信されることで、地域振興に繋がることも期待しています」。

亜熱帯の豊かな自然や独自の文化など、世界的にみても希少なロケーションが点在する沖縄。そのロケーションや文化的背景を生かして、これまでも沖縄を舞台にした映像作品が数多く誕生し、国内外に発信されている。そして、作品の舞台となった場所には新たな付加価値が生まれ、ロケ地観光(フィルムツーリズム)を誘発し、直接的な経済効果が生まれている。

劇中に看板メニューが登場し  
映画公開以来、来店客数が増加  
今後の反響にも期待

氾濫バーガー チムラガス

この流れを最大限に活かして  
認知度UPと誘客に繋げたい

2024年10月公開の映画『ラブライブ！虹ヶ咲学園スクールアイドル同好会 完結編 第1章』は、学校を舞台に活動するスクールアイドルの奮闘を描いたアニメーション作品だ。映画版・第1章の舞台は沖縄。ちゅら海水族館や備瀬のフクギ並木、桜坂劇場、デポアイランド、今帰仁城跡など、県内各地が映画のストーリーに登場し、



店舗があるのは瀬長島ウミカジテラス内。オンシーズンには観光客が列をなすことも

実際に再現された沖縄の美しいロケーションが話題となった。そして、アニメの劇中に登場し、公開直後から大きな反響を呼んでいるもののひとつが、瀬長島に店舗を構える「氾濫バーガー チムラガス 瀬長島ウミカジテラス店」だ。同店の犬丸さんは「劇中では、主人公たちがお店の看板メニューである氾濫バーガーとルートビアを注文し、席で食べるシーンが登場します。公開後、このメニューと席を目当てにアニメファンの方々がお店に足を運んでくださるようになりました」と嬉しそうに話す。主人公たちが食べたメニューを同じ席で食べて写真を撮り、その様子をSNSに投稿すると、それを観たほかのファンが来店するという連鎖で、昨年10月の公開から100名以上のファンが来店し、売上が伸び続けているという。

「瀬長島というロケーションもあって、今までは若い女性のグループやファミリーのお客が多かったのですが、映画公開の影響で20代・30代の男性の来店も増え、新しい客層の獲得にも繋がりました。お店をオープンして10年になりますが、今までで一番の反響があり、プロジェクトに参加させていただけただけにとっても感謝しています」。話が合った当初はあまり反響を期待していなかったとのことだが、「こんな風にたくさんの方に認知されるお店になり、





お店の看板メニューの「汎濫バーガー」。自家製のパンを2枚使用し、厚切りベーコン、チーズ、リーフレタス、トマト、特製サルサソースと驚くほどボリュームー

**汎濫バーガー チムフガス  
瀬長島ウミカジテラス店**

豊見城市瀬長174-6 瀬長島ウミカジテラス1階4番  
☎ 098-851-8782 Instagram@chimufugas



店舗で実際にお客様に対応する犬丸さんは、新たな客層が増えたことを肌で感じているという



誇らしい思いです。今後もこのようなコラボレーションがあれば、ぜひ協力させていただきたいです」と、嬉しい反響にスタッフ一同驚きつつも、モチベーションアップに繋がっているようだ。

**ロケ地マップとの相乗効果で  
沖縄観光をさらに盛り上げる**

沖縄フィルムオフィスでは、映画公開に合わせ、映画のロケ地マップを作成。このマップも誘客効果に繋がっているという。

「アニメの影響で来店されたお客様には、ロケ地マップを渡してお声がけさせていただくこともあります。お話を聞くと県外からのお客様が多く、沖縄観光と合わせてロケ地を回っているという方もいらっしゃいます。春休みや夏休みなどの繁忙期に向けてまだまだ来店が見込まれますが、この波を一過性のものにならないよう、SNSを通して沖縄の魅力やお店の情報発信にも力を入れていきたいと考えています」と、犬丸さんは今後の展望を語った。

**ヘアメイク・スタイリストは  
映像作品や写真撮影に  
欠かせない仕事**

**Styleborn**

**今後も需要が高まる沖縄の  
ヘアメイク・スタイリスト業界**

カメラマンの父とファッション関係の仕事をしてきた母に影響を受け、ヘアメイクの道へ進むことを選んだあきらさん。現在は、サロンでの仕事のほかに映画・CMの撮影現場やフォトウエディングでのスタイリスト、メイクアップアーティストとして活躍し、また、若手の育成・独立もサポートしている。「幼い頃から撮影現場を見てきたのでヘアメイクの仕事をしたかったと思っていました。実際にこの仕事を始め、2006年には沖縄に移住し、友人の紹介で県内のファッションショーのヘアメイクのお仕事をさせていただき、2007年に北谷町砂辺にサロンをオープン。現在は撮影現場での仕事も増え、サロンスタッフと撮影現場スタッフが連携を取りながら各業務にあたっています」。映画やCM制作の現場では、複数のスタッフで対応できるチーム力を活かして、現在までに沖縄を舞台にしたさまざまな作品に携わってきた。「映像制作の現場では沖縄ブランドの人気の高まり、沖縄での撮影が増えているように感じます。県外の企業と協力してスタイリングを担当する際は、沖縄に拠点を置いているからこそわかる衣装の季節感や沖縄らしさを提案しています。ローカルのスタッフが加わることで作品に説得力が生まれる点が、私たちが求められる理由だと感じています。また、ここ数年沖縄のフォトウエディング業界も盛り上がりを見せており、県内外の企業や個人事業主の業界への参入が増えたことで、お客様の選択肢が広がりました。弊社はヘアメ



テキスタイルブランド「taion」とコラボレーションし、新しいリゾートウエディングを提案するプロジェクトが進行中



リゾート感のあるtaionの大胆なテキスタイルデザインが目を引く

**県内企業と連携し、  
新しいリゾートウエディングを提案**

イク・スタイリング・撮影までを一貫して行えるところが強みです。その強みを活かして、今後もいろいろな取り組みを進めていきたいです」。

2024年度には、沖縄県から当公社が受託する、県内企業の利益力や生産性の向上を図るために複数の企業が連携し、それぞれの強みを活かして取り組む「稼ぐ企業連携支援事業」に当社が採択され、現在、テキスタイルブランド「taion」とコラボレーションしたプロジェクトを進めている。「弊社がヘアメイクと撮影、taionさんが衣装を担当し、新しいリゾートウエディングを提案するプロジェクトです。taionさんの特徴である鮮やかなテキスタイルで制作したドレスが沖縄の太陽や海に映えて、今までにないウエディングフォトを残すことができると思います」。プロジェクトを

通して、あきらさんはロケーションビジネスとしてのフォトウエディングの幅も広げようとしているという。また、今後は、働く環境づくりにも取り組んでいきたいと話す。「女性が多く活躍している業界なので、ライフスタイルの変化などがあっても多様な依頼内容に合わせて助け合える体制を作れないかと、模索している最中です」。



ヘアサロン、ウエディングヘアメイクなど、スタイルボーングループとして4店舗を経営するあきらさん

**プロジェクト9  
映像に意味を持たせる  
抛りどころの多さと多様性が  
沖縄のロケーションの魅力**

**映像が歴史や文化を伝える  
ストーリーテラーの役割を担う**

伝説のロックンローラーの孫である主人公が、祖父が人気を博していた70年代のコザにタイムスリップし、奮闘するロックンロール・コメディ『ミラクルシテイコザ』。2021年公開のこの作品は全国でも上映され、1年に及ぶロングラン公演を果たした。この映画を撮影した「プロジェクト9」の平一紘監督は、「沖縄のロケ地としての魅力は、抛りどころの多さだと思っています。フレームに映り込むだけで映像が成立する風情や風景がどの地域にも点在しますし、沖縄独特のチャンプルー文化が根付いた、多様性を感じるロケーションが存在することも魅力だと感じます。映画を観た方がコザのロックに興味を持ち、ロケ地に訪れたことをSNSを通して僕に知らせてくださることもあります。公開から4年経っても、作品を通じた繋がりを感ずる場面は多いですね」と語る。



沖縄県を拠点に活動する映画製作チーム「PROJECT9」を大学時代に立ち上げた平一紘監督。自主映画作品の製作も多数

<https://project-nine.info/>



映画『木の上の軍隊』製作幹事・配給：ハビネットファントム・スタジオ ©「木の上の軍隊」製作委員会 6月13日よりスターシアターズはじめ全国ロードショー

県内で撮影を続ける平監督の最新作となるのは、今年6月公開予定の『木の上の軍隊』。「この映画は、俳優の堤真一さんと山田裕貴さんのダブル主演作品です。激戦下の伊江島で、ガジュマルの木の上に身を潜め、そのまま終戦を知らずに2年間過ごした二人の兵隊の実話をもとに製作しました。ロケ地となった伊江島に、実際にガジュマルを植えたのですが、撮影終了後もガジュマルを残していただけないことになりました」。平監督は、このガジュマルが新しい平和学習教育の場になってほしいと話す。一つの作品が新たな形で残り、訪れる人々に何かを語りかけるのも作品の力なのだろう。

**Styleborn**

北谷町浜川124-2 S-130  
☎ 098-926-2070

<https://styleborn.info/>



# アイデアなアイデア

話題になる新商品や新たな取り組みは必ず良いアイデアがもとになっている。知恵と努力とひらめきから生まれたものとは？



紙の端材に命を吹き込んだ生サバメモ帳などのオリジナル文具

『kamitopia』

沖縄高速印刷株式会社

きっかけは「もったいない」から部署を越え生み出される斬新なアイデア

新鮮そうな生サバの切り身、レトロな紙マッチ、無造作に破いた包装紙からのぞく板チョコレット。これらは全て、メモ帳である。遊び心満載のデザインが特徴のオリジナル文具ブランド「kamitopia(カミトピア)」を展開するのは、県内でも老舗に入る印刷会社の沖縄高速印刷株式会社



昔懐かしい紙製マッチやカットケーキ、ポーク玉子おにぎりを模したメモ帳など、端材で作ったとは思えないクオリティとアイデアで、数えきれないほどの種類の商品化している

社だ。主な材料は、本業であるポスターやチラシの製造過程で出る端材。通常であれば廃棄される端材に新しい命を吹き込み、紙と印刷の新たな可能性、環境に優しいビジネスのあり方を追求している。

業界柄、質感や色合いに加え、厚みの違いや用途の限られた特殊紙など、扱う紙の種類は豊富だ。ただ、印刷の過程で断裁などの加工があるため、常に端材が出る。kamitopiaを担当する常務取締役の國場博史さんは「紙を仕入れる際は、使う分だけではなく、1締め100枚など単位が決まっているので、余りが多くて『もったいない』と感じていました」と話す。再生紙にするとしても水などの資源コストが必要となるため、経営面の課題があった。

余った紙で商品を作れないか……。企画担当の女性社員に相談すると「可愛い文具なら女性に人気がありますよ」との返答。有志を募ると、興味を持った社員が部署を越えて集まった。斬新なアイデアで付加価値を高めるため、國場さんが「コストをかけないから自由にやらせてほしい」と訴え、当時の役員も承諾。2022年8月にプロジェクトを発足した。kamitopiaは「紙」と「理想郷(ユートピア)」を合わせた造語だ。タブレット端末などの台頭で業界に閉塞感が漂う中、紙と印刷の可能性を信じ、業界を盛り上げたいという想いを込めた。

開発過程はまるで連想ゲームのようだ。赤い紙は三角に断裁してスイカ型のメモ帳に。光沢のある銀色の素材からは鮮魚を連想し、フィルム加工の技術を生かしてサバやグルクンの鱗を再現した。商品はメモ帳のほか、シールやポチ袋、名刺入れなど100種類以上に及ぶ。小ロット生産のため、販売はECサイトがメインだ。今も専門部署はなく、有志4人が月に2〜3回集まってアイデアを出し合う。國

場さんは「交流の少なかった企画担当と工場職員がコミュニケーションを取るようになり、社内の空気も少し変わりました」と笑みを浮かべる。

2024年には、創業70年を迎えたブラザハウスの記念メモ帳の制作や、神戸市の人気スポット「フェリシモチョコレットミュージアム」に板チョコ型のメモ帳を卸すなど、少しずつ認知度が高まってきた。2023年から2年連続で日本最大級の文具即売イベント「文具女子博」にも出展し、SNSのフォロワーも増加傾向にある。これらの商品を入りにして「名刺やチラシも作れますか？」と本業の受注につながることも増えてきたという。「もったいない」に目を付けたユニークな挑戦が、創業53年目を迎えた沖縄高速印刷の未来に彩りを加える。



kamitopiaプロジェクトの活動を実施し、製造部門を担当する國場博史常務取締役

沖縄高速印刷株式会社  
南風原町兼城577 ☎098-889-5513  
http://www.kohsoku.co.jp/



恩納村産「あふそ米」で泡盛造り 優良県産品「NEXT部門」受賞

『On a Village』

咲元酒造株式会社

日本米で独特な「甘味」引き出す、ネーミングやパッケージにも故郷の想い

恩納村にある観光施設「琉球村」の敷地内に酒蔵を構える咲元酒造株式会社は昨



黄金色の稲穂が一面に広がる恩納村安富祖地区の田んぼ。遠くには恩納岳が望める



アルコール度数27度500ml(左)と、42度200ml(右)の「On a Village」

年11月、同村のブランド米「あふそ米」で作った泡盛「On a Village」を発売した。開発の中心役を担ったのは、同社の杜氏(とうじ・酒造りの責任者)である恩納村安富祖出身の奥間英樹さん。故郷への愛情を1本の瓶にぎゅっと詰め込んだ。

恩納岳から流れ出る豊かな水に育まれ、琉球王朝の時代から脈々と米作り文化が受け継がれてきた安富祖地域。山の麓には、今も稲穂が黄金色に輝く田園風景が広がる。そこで収穫された米は村内で主に食され、奥間さんが通った安富祖小学校には田植え体験の授業もあるなど、住民に深く親しまれてきた。あふそ米のブランド化や恩納村のPRの一助になればと、奥間さんには「いつか地元で酒を造りたい」という想いがあったという。

一般的に泡盛の原料として使われるタイ米に比べ、日本米は水分量が多く、粘り気もある。麹菌を広げる工程で工夫が必要になるため、地元産の米で酒造りに励む他社の酒造所などを訪ねてノウハウを学んだ。試行錯誤を繰り返して、丸2年をかけて商品化に成功。奥間さんは「香りに品があった、甘味があるのが特徴です。あふそ米自体がおいしいので、酒造りに合っていたんじゃないかと思っています」と満足げだ。

商品はアルコール度数27度(500ml入り)と42度(200ml入り)の2種類。恩納村の南北の距離である27kmと東西の4.2kmに

ちなんだ。英字の「On a Village」という部分は、英語の特徴を生かして「オンナビレッジ」と読めるように工夫した。他にも、恩納村が「琉歌の里」であることをアピールするため、パッケージに「恩納岳くさて 黄金稲実る 生まりたる恩 故郷ぬ情」という自作の一首を記すなど、遊び心を交えながら、故郷への愛情を満載した。PR動画の音楽も自作だ。20年近くにわたり、フォークシンガーとしての顔も持つ奥間さん。作った楽曲は200曲以上に及ぶ。「自分で作詞作曲をしてきたことが、商品開発をする上での遊び心につながっているんだと思います」。日々の創作活動が、多彩なアイデアの源泉だ。

27度は主に地元客向け。スタイリッシュなボトルで、持ち運びがしやすい箱詰めの42度は観光客向けを意識した。おんなの駅なかゆくい市場や琉球村の売店などで販売しており、生産量は年間3千本。昨年10月の「沖縄の産業まつり」で27度の商品が優良県産品の「NEXT部門」で最優秀賞に輝き、売れ行きは好調だ。奥間さんは「その年に仕込んだ商品の解禁日をつくって、村内のリゾートホテルと一緒にイベントをやっても面白そうですね」と語り、次なる仕掛けも既に浮かんでいるようだ。故郷の原風景を次代に引き継いでいくため、泡盛造りを通じた地域の活性化に力を注ぐ。



商品開発にあたり地元恩納村への愛情をいっぱい注いだという奥間英樹さん

咲元酒造株式会社  
恩納村字山田1437-1(琉球村施設内)  
☎098-963-0208  
https://www.sakimoto-awamori.com/



# Challenger ビジネスの 挑戦者たち

日々変化する経済環境や時代の流れを読み  
ニーズを捉えてビジネスへと結びつける。  
そんな並々ならぬ情熱を持ち  
失敗を恐れずチャレンジする人たちをクロースアップ。



**有限会社大輝商事**  
営業課長 兼工場長  
**新垣 晃太** さん

那覇市出身。将来的に家業を継ぐことを考え沖縄調理師専門学校へ進学。卒業後、居酒屋で2年、病院の調理室で9年ほど調理の経験を通じ、2013年に家業の大輝商事に入社。15年から現職。営業や総務、製造分野を幅広く担当。沖縄独自の法事の作法や高齢者雇用をテーマに各地で講演なども行いながら、沖縄の伝統文化継承に尽力。バンド「mdk-Row」のボーカリストとしても活動する。

## 沖縄の伝統行事に欠かせない食文化を継承し 業界全体の活性化に取り組む

**大輝商事の名を広めたのは  
試行を重ね完成させた重箱料理の味**

故人となった大切な家族や親せきと心で繋がる法事・法要や旧盆、シーミー(清明祭)などの行事に欠かせない重箱や弁当の提供を通して、沖縄の伝統文化を継承しているのが、有限会社大輝商事だ。お供え物には決まりごとが多く、難しく捉えられやすいが、同社の営業課長であり工場長を兼任する新垣晃太さんは、先祖を敬う気持ちは大切にしつつ、現代的な感覚に合った食の提案で業界の発展に力を注いでいる。

大輝商事のはじまりは、1996年。新垣さんの母であり、大輝商事社長の百合子さんが姉と共にウコン茶のティーバッグを製造する会社を開業。当時は「沖縄ブーム」の走りの時代。多くの観光客が訪れ、ウコン茶は土産商品として飛ぶように売れたという。ところがその後、需要が落ち込み、今後について考えた時、沖縄の文化や風習上、一定の需要が見込める重箱料理に着目した。料理上手な姉をはじめ、工場のあった糸満市座波の「母ちゃ



伝統的な重箱料理(上)、老若男女に人気のアレンジ重箱(中)、新商品として発売した「DELISHシリーズ」のオードブル(下)

んたち」をスタッフとして迎え入れ、昔ながらの味と知識を元に、大輝商事の重箱を完成。その味が評判となり、重箱は大輝商事の看板商品となった。固定客が少なくなったのもこの重箱料理のおかげだ。

新垣さんが家業に携わるようになったのは2015年のこと。学生時代、「ゆくゆくは家業を継ぐことになるだろう」との考えから調理師の専門学校へ進学。卒業後は飲食店と病院の調理部門で経験を積み、即戦力として役立つ力を備えた上で満を持して、大輝商事に入社した。

「てっきり調理の現場に入るものだと思ったら、社長からは『まずは営業職をやりなさい』と。売り上げを作ることもできないのに調理について色々と言うのは違うでしょう」という意図からの指示でした。

新垣さんは当時を振り返り、そう話す。始めたばかりの頃は苦勞に苦勞を重ねた営業活動だったが、ようやく結果が出せるようになってきたと手応えを感じ始めた矢先、新型コロナウイルスの流行でこれまでに経験したことのないほどの経営難に陥ったという。

**伝統を守り、繋いでいくために  
大切にしているのは「人」と「柔軟さ」**

「新型コロナウイルスの期間は相当なダメージを受けました。売り上げは半分以上まで落ち、正直、倒産寸前までいきました。でも、ただ状況を嘆いても何も変わらない。何かしなければと実行したのが、工場の経費の見直しでした」。

製造工程や製法を見直すことで肉や魚などの材料のロスを減らし、人手に頼っていた作業の一部を機械化することで新たな体制作りに取り組んだ。真空圧縮機や急速冷凍機の導入で作業効率も上がり、結果的に従業員の働き方改革にも繋がったという。工場における大々的な作業改革は、これまでのやり方を良しとする現場と衝突することも多い。だが、

新垣さんはスタッフ一人一人との対話を大事にし、どんなに忙しくても個別に面談する時間を定期的に取り、不満はないか、困っていることはないかなど、丁寧な聞き取りを行い、きちんと向き合うことを大切にしている。その中で生まれた考えが、高齢者の継続雇用だった。

「工場には昔から働いてくれている方がいますが、彼らが65歳の定年を迎えるようになった時、残ってほしいという気持ちから定年の引き上げを決めました。今は70歳以上の方が7名働いてくれています」。

新垣さんのこの取り組みが評価され、令和5年度には厚生労働省の「高齢者活躍企業コンテスト」で特別賞も受賞した。

新垣さんが話の中で幾度となく口にするのは「自分たちの会社だけが儲かるのではなく、業界全体を盛り上げ、次の世代に繋いでいきたい」という気持ちだ。

「法事や行事には確かにしきたりが多いのですが、そこには一つ一つ意味があり、それは根本的には故人を敬う気持ちに繋がっています。そのことを理解した上で、例えば法事の場合でも現代の生活に合うお弁当や返礼品を提案し、若い人たちにも受け入れられやすい要素を盛り込むことで、伝統を守るだけでなく、繋いでいくことができると思っています」。

人生の区切りや節目を支える味を守りつつ、時代の変化に柔軟に対応することで新垣さんは、沖縄の伝統文化継承に取り組みとともに、故人を偲ぶ人たちが前を向いて歩いていけるよう、応援の気持ちを送り続ける。



大輝商事の味を守り続ける調理スタッフ

有限会社大輝商事  
那覇市高良3-17-36  
☎ 098-859-5558  
<https://www.taikisyouji.com/>



令和7年度 沖縄県産業振興公社

# 支援メニュー 説明会

参加無料

こんなお悩みありませんか？  
企業支援の専門家集団が、御社にぴったりの支援メニューをご紹介します！

- ✓ 経営上のことで専門家のアドバイスがほしい
- ✓ 補助金がないか教えてほしい
- ✓ 販路拡大・海外展開がしたい etc

個別相談会もあります！

お申し込み・お問い合わせはこちら

申込 4/13(日)

公益財団法人 沖縄県産業振興公社  
Okinawa Industry Promotion Public Corporation  
担当：総務課

TEL:098-859-6235  
説明会お申し込みはこちら

<b>名護</b> 30名	4月18日(金) 13:30~15:30 北部会館 3F 3-1・3-2 (名護市宇茂佐の森5丁目2-7)
<b>石垣</b> 30名	4月23日(水) 13:30~15:30 石垣市役所 2F 会議室 (石垣市字真栄里672)
<b>宮古</b> 30名	4月22日(火) 13:30~15:30 未来創造センタースタジオ1 (宮古島市平良字東仲宗根807)
<b>那覇</b> 80名	4月25日(金) 13:30~15:30 産業支援センター 1F (那覇市字小祿1831-1)

課題解決フェア同時開催！

## 公社ネットワーク会員からのお知らせ

### 業種業界のイメージや認知度に左右されない！ 学生と必ず接点を持てる新卒採用イベント

新卒採用に力を入れたいがなかなか採用活動が上手くいかない、そんな企業様へサポート事業を行っています。従来の合同型説明会は、企業の認知度により各社の着席率に大きな差があります。BtoB企業や10名以下の少数採用を行う企業が参加するには大きな壁があることを解決すべく、「必ず学生と接点を持てる(着座が保証される)」仕組みでイベントを開催しています。

#### 【メリット】

- ・確実に参加者との接点を持てる
- ・業界業種のイメージや先入観を越えて、出会いがある
- ・企業訪問への接続など事後フォローが含まれる

どんな企業様にも平等に自社アピールのチャンスがあります。この機会を活かし、会社訪問や説明会への参加、採用へ繋がった事例も増えています！

株式会社ひとのこと ☎080-3979-6307 <https://www.hitonokoto.ch/>



### エアーフレッシュナー、ステッカー、マグネットで 身を守るサンガーをいつでも身近に

沖縄のお守り「サンガー」は古い時代より、お供え物の他、食べ物や子ども達をマジムン(魔物)から守るものと信じられ、何世代にもわたり受け継がれている大切な文化です。交通事故が多発している近年、少しでもあなたやあなたの大切な誰かを守りたいという想いから、サンガーマークの「エアーフレッシュナー」「ステッカー」「マグネット」が誕生しました。5,000個以上の販売実績があり人気商品になりつつあります。店舗や小売業者様との取引も可能です。気軽にご相談、お問い合わせください。販売: ゆいゆい国頭道の駅、村の角煮 饅頭喜喜、メルカリ ショップス、Amazon

株式会社MARUKIN

☎ 098-989-0282

<https://okinawa-air-freshener.jimdofree.com/>



### 高齢者の知恵から生まれた健康茶 てだ桑茶

てだ桑茶は、浦添市の高齢者の方々が「もったいない」と感じ、桑葉の余りを活用して茶葉の試作を始めたことから誕生しました。2010年から商品開発が進められ、2012年に製品化に成功。島桑の葉を100%使用し、浦添市の特産品として販売されています。パウダータイプは飲料用だけでなく、健康食品としても多様な可能性を秘め、食物繊維、カルシウム、鉄分、ビタミンB2などの栄養素が豊富に含まれています。また、製品に使用されない桑の枝をチップにして畑へすき込み、改良剤として利用するなど、無駄を出さない循環型農業を実践しています。



株式会社沖縄美健販売 浦添営業所

☎ 098-943-0623

<https://tedakuwa.myshopify.com>



### 沖縄発日本防災グッズ大賞優秀賞受賞 ファイダ大容量非常用ポータブル電源

近年、日本では台風や地震、大雨、津波などの自然災害による停電が多発しています。この状況に対応すべく、弊社は「ファイダポータブル防災電源」を設計・製造しました。

- ・大容量と多機能性: 初回リリースのYDシリーズは2688Whと5376Whの2種類を提供。AC、DC、USBポートを装備し、業務用を含む全電化製品に対応。
- ・高出力: 最大4500Wでエアコン、冷蔵庫、電子レンジを同時使用可能。
- ・安全性: PSE認証取得のリン酸鉄リチウム電池を採用し、発火・爆発のリスクを排除。UPSシステム搭載で停電時のデータ損失も防ぎます。



株式会社福山田

☎ 098-969-2047

<https://fydenery.com>



(公財) 沖縄県産業振興公社ではネットワーク会員を募集しています。特典の一つとして上記お知らせ欄への無料掲載があります。その他にも特典メニューをご用意。詳しくは <https://okinawa-ric.jp/info/members/> まで。

## 食品流通業界に最新情報を発信する商談展示会

# スーパーマーケット・トレードショー2025 沖縄県ブースに21社が出展



沖縄県産業振興公社では沖縄県の委託を受け、千葉県・幕張メッセで開催された「スーパーマーケット・トレードショー2025」に沖縄県ブースを出展。県内から食品関係業を中心に21社が合同出展し、期間中約7万7千人ものバイヤーが足を運んだ。



サンプルを配りながらも笑顔がたえない、(株)沖縄バイオニアフーズの営業担当、當銘星奈さん



「うるま市の温かな人と豊かな物をピアールしています」と、(株)ファーマーズ・フォレストの坂本弥侭さん



沖縄を全国にアピールするブースを設け、県内から21社が「沖縄ブランド」商品を紹介

全国スーパーマーケット協会が主催する「スーパーマーケット・トレードショー2025」が、去る2月12日から14日までの3日間、千葉県・幕張メッセを会場に開催。沖縄県産業振興公社が5年ぶりに沖縄県ブースの取りまとめを行い、県内から食品販売業を中心とする21社が出展し、全国の大手百貨店やスーパーマーケットのバイヤーに向けて試食や試飲を提供し

ながら積極的に自社商品の紹介を行った。期間中、7万を超えるバイヤーが会場を訪れ、全国各地の出展ブースを回りながら商談を行っていたが、沖縄ブランドは根強い人気を見せ、多くのバイヤーの足を止めていた。今回、初出展したKUIKO KEBABU(株)の吉田剛さんも「来場者の数が多く、実りのある商談が出来ました」と、手応えを感じたようだ。

▶▶▶【沖縄特区・地域税制活用ワンストップ相談窓口】 沖縄県内で設備投資等を行う際に活用できる税の特例制度があります。お気軽にお問い合わせください。



1995年生まれ那覇市出身。小学生のときにスカウトをきっかけに芸能界に入る。ローカルタレントとして活動後、東京。テレビドラマ、映画、舞台、CM出演などで女優として活躍。最新作に映画『かなさんどー』のほか、フジテレビのドラマ『日本一の最低男』などに出演。



instagram@imrukam



1月31日、沖縄の先行上映に合わせて舞台挨拶が行われた。右から照屋年之監督、芸人のKジャージさん、松田るかさん、主題歌を作詞・作曲した民謡歌手の前川守賢さん



映画『かなさんどー』  
配給：パルコ  
©「かなさんどー」製作委員会

沖縄県・伊江島を舞台に、独自の死生観と笑いを交えて描く、家族の愛と許しの物語。先行上映した県内スターシアターをはじめ、2月21日からは全国で上映中



実力俳優陣による出演で話題となった『かなさんどー』。ロケ地となった伊江島の美しい自然や、やわらかな空気感は、映画の郷愁漂う美しいストーリーに役買っている

## 松田るかさん

女優

**今回の作品を通して  
沖縄の素晴らしい自然の魅力を改めて体感  
沖縄出身の女優として  
エンターテインメントを盛り上げていく**



表紙の人  
INTERVIEW

「今回の撮影はオール沖縄ロケで、撮影中はのびのびとした自分でした。近年多くのドラマや映画、CMなどで活躍する県出身の女優、松田るかさん。2025年2月21日全国公開（1月31日沖縄先行上映）した映画『かなさんどー』（監督・照屋年之）で主人公の知念美花を演じ、「家族への許し」という難しい愛情の機微を見事に表現している。

映画では、愛情深い母と奔放な父、そして松田さんが演じる娘それぞれの家族への想いが、時にぶつかり、絡み合い、最後には深く大きな家族愛へと変化する様子が描かれているが、松田さんが作品を振り返り、もともと印象的だったと話すのは、映画のタイトルと同名の沖縄民謡『かなさんどー』を歌い上げるシーンだという。

「映画の舞台は伊江島なのですが、一面のユリ畑で歌うシーンが印象的でした。夜の撮影だったのでお客様は誰もいらっしやらず、遠くからちょっとだけ波の音が聞こえる状況。照屋監督からは、「僕からはスタートを言わないから、るかさんの気持ちの準備が

できたら始めていいから」と言われて。現実でないようなその風景と、演じる時間をスタッフ全員が待ってくれることの嬉しさも含めて、とても印象に残っています。

女優としてだけでなく、松田さんの歌声の素晴らしいさも本作の見どころの一つだ。沖縄民謡はその独特の節回しを会得するのが難しいのだが、民謡歌手の古謝美佐子さんから歌唱指導を受け、初めて歌うとは思えないほど艶やかで心に響く美しい歌声を披露している。

今回の撮影を通して改めて感じた沖縄の魅力を尋ねてみると、「やっぱり、沖縄の自然は何ものにも代え難いものですね」と松田さん。沖縄に住んでいた頃は当たり前のように見ていた沖縄の海に、他にはない格別の美しさがあることに気づいたという。そんな松田さんに今後、取り組んでみたいことを伺った。

「沖縄の方々が、エンターテインメントに触れる機会をもっと増やしていきたいです。多くの方に劇場へ足を運んでいただけるよう、私も頑張りたいと思います」。

中小企業支援者が一同に集結！

つながりでサポート、未来を創る！

中小企業・創業者のためのイベント  
～解決のヒントがここにある！～

# 沖縄中小企業 課題解決 フェア

2025  
**4/25** 金  
10:00～17:00

会場 沖縄産業支援センター 1階・3階  
(那覇市小祿 1831-1)

県内最大級の  
中小企業支援イベント！

**基調講演**

時間 10:30～12:00  
場所 1階ホール  
テーマ『VUCAの時代に突入する  
私たち(組織・個人)が  
持つべき"4つのチカラ"』

**吉村 正裕** (自称:講演漫談家)  
京都市出身  
(株)サイバーアシスト 代表取締役  
吉村酒造(株)6代目蔵元  
中小機構 中小企業アドバイザー

**展示相談会**

時間 10:00～17:00  
場所 1階展示場

経営課題の解決を支援する専門家や企業が集結！創業・経営、資金繰り、人材育成、DXなど多様なテーマのブースが並び、実践的なアドバイスや支援策を提供します。

**セミナー**

時間 12:00～17:00  
場所 3階中・小会議室

経営や採用、デジタル化など多様なテーマのセミナーを開催。専門家が実践的な知識と具体的な解決策を提供します。

学生×企業コラボ企画「食品商品企画コンテスト2025」のプレゼン＆審査も実施

**交流会**

時間 17:00～19:00  
場所 1階ホール

来場者や出展者が交流できる「交流会」を開催。情報交換を通じて、新たなビジネスチャンスを創出する場としてぜひご利用ください。

**来場登録**

事前登録はこちら▶▶▶▶▶

入場にあたり、事前登録が必要です

主催:沖縄県プラットフォーム推進協議会 共催:株式会社沖縄産業振興センター 後援:内閣府沖縄総合事務局、沖縄県  
 参画機関(3月現在):公益財団法人沖縄県産業振興公社、一般社団法人沖縄県中小企業診断士協会、独立行政法人中小企業基盤整備機構沖縄事務所、株式会社沖縄TLO、一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センター  
 お問い合わせ先:公益財団法人沖縄県産業振興公社 経営支援課 sup\_fair@okinawa-ric.or.jp



ネットワーク

# 会員広場

沖縄県産業振興公社ネットワーク会員企業の中で、新商品情報やユニークな商品・サービスを開発するなど、独自の取り組みで、オンラインワンをを目指す企業を紹介するほか、講演会・交流会の企画などを発信します。

## 株式会社 佐喜眞義肢

### 「歩く喜び」と「笑顔」を届ける画期的な関節装具を開発 創業から45年、佐喜眞保会長が「旭日単光章」を受章



創業45年。宜野湾市の小さな町工場からスタートした株式会社佐喜眞義肢は、義肢装具の開発、製作を通して、変形性膝関節症などをはじめとする身体に悩みを抱える人々に「歩く喜び」と「笑顔」を取り戻すための後押しをしてきた。創業者である義肢装具士の佐喜眞保会長は、72歳となった今も現場に立つ。実直かつ、真摯な仕事ぶりが評価され、2024年には様々な業界で顕著な功績を挙げた人材を国が表彰する春の叙勲で「旭日単光章」(中小企業振興功労)を受章。佐喜眞保会長は「話があった時は驚きました。これも長年一緒に続けてきた社員や家族のおかげ。感謝しています」と笑みを浮かべる。自身も幼少期に脊椎の病いにかかり、大手術も経験した佐喜眞保会長。県外の鉄工所勤務などを経て、福岡県の身体障がい者職業訓練校で義肢装具科を修了し、1980年に同社の前身となる佐喜眞義肢製作所を妻と2人で創業した。社の知名度を全国区へと押し上げたのが、1999年に特許を取得した関節装具「CBブレース」だ。従来の製品は固定金具が膝の上下にあり、しゃがむ姿勢がとりづらいたなど装着時の違和感がある物が多かった。だが、佐喜眞保会長は逆転の発想で固定する支柱を膝の後ろに設置。ふくらはぎと太ももを支える部分は伸縮性のある独自のベルトで装具のずれ落ちを防止するなど、利用者の声を拾い上げ続けた。結果、よりシンプルな構造で広い可動域と大幅な軽量化を実現。この構造は支



佐喜眞保会長とともにものづくりに取り組む息子の佐喜眞一郎社長

現。この構造は支



CBブレースを装着することで、自力で歩く喜びを取り戻した患者も多い

製品は、2001年に創意工夫功労表彰として「文部科学大臣賞」、2005年には経済産業省から「第1回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞」を受賞した。CBブレースは全て採寸、採型を経てのオーダーメイドで、生産数は月に150〜200台。日本各地のほか、台湾など海外にも出荷される。現在ではスポーツ選手や手術後のリハビリに取り組む人なども含め、症状や用途に合わせて様々なタイプを製作している。膝裏のCBバーを立体構造にした新タイプ「ダブルCB」(仮称)も発売へ向けて準備を進めている。「膝と装具の連動性が高まり、より高い安定性が得られます」と、ハッラツとした表情で説明する佐喜眞保会長の製作意欲は衰えを知らない。

置。ふくらはぎと太ももを支える部分は伸縮性のある独自のベルトで装具のずれ落ちを防止するなど、利用者の声を拾い上げ続けた。結果、よりシンプルな構造で広い可動域と大幅な軽量化を実現。この構造は支



令和6年春の叙勲「旭日単光章」を受章した佐喜眞保会長。今でも現場に立つ

株式会社 佐喜眞義肢  
金武町字金武10914  
☎ 098-983-2577  
https://www.cb-sakima.jp/



お手軽料金で経営に役立つサービス色々！  
公社ネットワーク会員制度  
公社ネットワーク会員 検索  
https://okinawa-ric.jp/info/members/

## 海外REPORT

### 福建省での文化交流と 県産品の販路開拓の取り組み



from 上海 上海事務所・福州駐在所 所長 下地 由紀子



合同演舞



大会参加者

昨年12月、中国福建省福州市で福建省内の4つの大学が参加した「第10回福建省大学エイサー大会」を開催しました。福建省における「エイサー」は2000年頃から少しずつ広まり、沖縄の企業からの太鼓の寄付や普及活動の積み重ねによって発展してきました。2015年には沖縄県産業振興公社(福州駐在所)の主催で第1回大会を実施し、現在では学生たちの練習の成果を発表する場としてだけでなく、沖縄を紹介し、沖縄と福建の友好交流を深める重要な取り組みとなっています。今回の大会は、多くの関係者の協力を得て、沖縄に深い縁のある、かつて琉球人の貿易拠点であり宿泊施設でもあった「琉球館(柔遠駅)」の前での開催が実現。大会では、4大学チームの演舞に加え、沖縄から参加した「那覇太鼓」と福建の学生たちによる合同演舞や三線のライブも披露されました。当日は沖縄県や福建省の関係者だけでなく、太鼓の音に引き寄せられた多くの福州市民も観覧し、沖縄と福建の人々が一体となる感動的なイベントとなりました。さらに、「エイサー」をきっかけに、福建省の学生たちが沖縄への留学や就職を選択したり、昨年は福建省の大学生が沖縄の観光関連企業でインターンシップを経験するなど、若い世代が両地域の架け橋として活躍しています。また、那覇-福州間の直行便が再開され、日本人の訪中ビザ免除措置も復活したことから、今後は観光や経済分野での交流がさらに活発になることを期待しています。

次に、中国市場における沖縄県産品の状況をご紹介します。中国に輸入されている県産品は、主に泡盛やビールといった酒類です。これらの県産品をPRする際には、沖縄の自然や文化を交えながら、その魅力を伝えることが効果的です。特に、沖縄への直行便が就航していた都市では沖縄は観光地として広く知られており、沖縄旅行を経験した人々は県産品への購買意欲が高い傾向にあります。昨年、県産品の販売促進と泡盛・ビールの流通企業との商談の機会を増やす目的で、上海市内の5つの飲食店で「上海沖縄フェア」を開催しました。このイベントでは、沖縄の食、文化、観光をテーマに取り上げ、結果として新しい取引や新商品の取り扱いが増加するなど、期待以上の成果を上げることができました。また、中国市場では、味や産地だけでなく、パッケージデザイン、独自性、そして商品にまつわるストーリー性が重要視されています。そのため、一般の消費者や飲食店、流通企業等を対象に、泡盛の歴史や飲み方を学べる講座を実施しました。この講座は非常に好評で、受講者からは「各商品ごとの特色や飲み方を体験でき、さらに知りたくなった」といった声が寄せられました。このような取り組みを通じて、沖縄とその酒類に興味を持つ人々へのPRに手応えを感じています。今後も、沖縄の魅力を効果的に伝える取り組みを続けていきたいと考えています。



上海沖縄フェア



泡盛講座

海外事務所 facebookやってます!  
https://www.facebook.com/okinawa.kaigai.ric



【お問い合わせ先】 海外・ビジネス支援課 担当:小浜 ☎ 098-859-6238

## QRコードを読んで応募 読者プレゼント

アンケートに答えて県産品を当てよう!!

### スターシアターズより 「映画鑑賞券ペアチケット」を 抽選で2組様にプレゼント



今号の表紙や特集で沖縄が舞台になった映画やアニメ作品を紹介。作品からはストーリーだけでなく、映画を通して舞台となった地域の魅力を知ることができます。迫力ある大スクリーンで沖縄の魅力を再発見してみませんか。県内6ヶ所のスターシアターズ系列の映画館で利用できる鑑賞券をプレゼントします。

応募締切: 2025年6月30日(月)必着

QRコードを読み取り、必須項目をご入力の上、ご応募ください。



- ご応募は1回のみとさせていただきます。
- プレゼントの発送をもって発表とさせていただきます。
- 個人情報はプレゼントの発送のみの情報として使用いたします。

タブロイド判 沖縄ベンチャースタジオ 77号

TAKE FREE

2025年3月17日発行

発行: (公財)沖縄県産業振興公社 ☎ 098-859-6237  
https://okinawa-ric.jp

編集: 光文堂コミュニケーションズ(株) ☎ 098-889-1131

本紙についてのご意見・ご感想、広告掲載に関するお問い合わせは ovs@okinawa-ric.or.jp まで「情報紙について」の件名を入れて送信してください。

※非売品につき有償での譲渡および転売を一切禁じます

